

第1回 井原市就学前教育・保育施設のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和6年12月3日（火）14：00～

場 所 井原市役所4階 大会議室

出席者：委員 12 名

事務局 7 名

教育長

1 開 会

教育長あいさつ

教育長：こんにちは。12 月に入り、今年もあとひと月足らずとなりました。皆様方には、教育保育のご支援をいただいていることにお礼申し上げます。

さて、井原市におきましては公立幼稚園 13 園、公立保育園 2 園、また、私立保育園 7 園、小規模保育事業所 3 園において、保育を行っています。

就学前教育・保育の役割といいますと、生涯にわたる生活の基盤や、小学校以降の学習の基礎を培う役割があります。

特に、幼稚園児の数が減少し、幼稚園の小規模化が顕著になってきています。

このたび保育園も含めて検討することとし、井原市就学前教育・保育施設のあり方検討委員会を立ち上げ、検討していくことになりました。本日のご出席の委員の方には、様々な意見をいただき、今後の在り方について検討していただきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

委嘱状交付

2 自 己 紹 介

3 委員長・副委員長 選 出

委員長あいさつ

委員長：委員長を拝命しました。よろしくお願いいたします。

井原の子どもたちにとって良いかたちで、一人一人が大切に育っていくようこの委員会が設置されたと思いますので、忌憚のないご意見を皆様から頂けたらと思います。よろしくお願いいたします。

4 諮 問

5 審 議

(1) 諮問内容について

委員長：諮問書の内容についてご質問等ありましたら、ご発言いただけますでしょうか。特にないようですので、この諮問を受け、審議を重ねていくということにしたいと思います。

(2) 検討委員会スケジュールについて

事務局：説明

このスケジュール案では 5 回としているが、協議内容によっては、あと 1 回設けることも可能。答申が完成した後、令和 7 年度中に教育委員会で方向性を決め、令和 8 年度に準備（地域、保護者への説明）、令和 9 年度には新体制のスタートと考えております。

委員長：12 月 24 日の第 2 回までにアンケートの意見とのことですが、どういう形で？

事務局：口頭で可能です。とくに形は決まりありません。内容については後ほど説明します。

(3) 資料説明

事務局：説明 p 5～p 7

委員長：今の段階で質問があれば。

(なし)

委員長：今後も子どもの数が減少、幼稚園については、希望者が減少していくということ
でよいですか。

事務局：はい。

委員長：これで見ると、保育園も減少しているし、幼稚園も減少ということになっている。

委員：全体数ですが、例えば 5 歳児。だいたい 5 歳児ならほぼ 100 パーセントの子どもが
幼稚園か保育園に通っていると思う。H 3 1 でいうと 98 パーセントくらい。この誤
差は？

事務局：市外の幼保や認可外の園に行っている人もいる。この集計の中からは除外してい
るため 100 パーセントにはならない。

委員：だんだん減っていく計算になっている。どっちかという乱暴な考え方。保育団
体が計算すると、減少率が市のものでは少ない。県ごとに集計しているものでは、も
っと減ると思われる。

事務局：0 歳の動きがキーになってくる。この表からみると、ジグザクの動きになっており、
平均を取るしか出しようがない。ジグザグというところで見込みを出すのが難しい
ところ。

そういった一律の減少率を使っている。実際は、減少がもっと大きいかもしれない
がわからないところ。

委員：現状、園児数が 1 けた台の園がほとんど。先程のあいさつの中にあつたように、集
団による効果的な教育というのが難しいところが幼稚園としては多い。

委員長：そういう時に困っていることは？

委員：鬼ごっこひとつするにしても、同学年だけで行うことはできず、異年齢との集団で
関わる時間が増えている。

委員：保育園はいつも定員オーバーです。どちらかという少人数がいいなという状況で
す。小学校につなげたいということで、地元の幼稚園を選ぶ家庭が多かったが、今は
その考えはなくなってきたかなと思う。幼稚園と交流させてもらっているが、幼稚園
は幼稚園でいいところがいっぱいあり、幼稚園を大事にしていけたらという思いもあ
る。子供によっては少人数の方がよいのではと思うお子さんもいる。

委員：幼稚園はほかの幼稚園保育園と交流をしている。大勢集まったときには、大勢のと
ころで学ぶことが多くあると感じている。先程言ってくださったように、集団が苦手
な子もいるというのも事実。そういった子のフォローができる幼稚園もできるといい
と思う。

委員長：個別のフォローアップをするのに、やりやすい、やりにくい？

委員：本園にとってはやりやすい。教職員にとっては難しい面がある。保護者はありがた
いと言ってくださっているが、本当に子どものためになっているかなと思う。

委員：幼保一体型施設。それぞれの家庭の状況にあった通園の仕方ができていると思う。3
から 5 歳児の幼稚園籍は 12 名。その 12 人は、午後からは家庭で過ごしたいと思って
おられる。幼保のやりにくさはある。しかし、保護者目線でみると、利用しやすいの
ではと思っている。

委員：全園児 10 名。欠席もあると、7 から 8 人で過ごしている。常に異年齢で関われる活
動を考え、集団の保障をしている。少人数のよさを生かすことを大切にしている。
他園と交流すると、大勢で、同学年でかかわるよさを感じる。同学年で少しでも人
数を増やしながらかかわる方法を考えていけるといいと思う。

委員長：幼保の関係者からは、少人数のよさ、多すぎる、他園交流についても話が聞けた。
保護者の立場からは。

委員：今、フルタイムで働いており、仕事と子育ての両立が大変。保育園がないと、仕事できないので、お世話になっている。幼稚園の話も保護者の中で聞く。小学校への流れがあるので、幼稚園もいいのかなと思う。でも、フルタイムの仕事をしているので、保育園でこのままお世話になろうと思っている。幼保両方のよさがあると思う。今、共和に住んでおり、移住の子どもが増えている。子供会ができるようになった。井原市は保育料無料で、移住の方も住みやすいところだと思う。

委員：3人目の末っ子が幼稚園の年長。現在小学校6年の兄は、保育園に最初預けていた。すごい大人数で、先生の話が聞けない部分があった。自分でほかの園を調べた時、少人数でのんびりした印象があった。私も、子どもも、こういうところがいいのではと思い、5歳児から幼稚園に行った。先生方がとてもフォローを手厚くしてくださった。2番目の長女は大人数が好きな子。そのまま保育園に行かせた。末っ子は長男の子育て経験から、年中から転園させた。今幼稚園は10人で少ないが、保育園と交流したり、小学生が絵本を読みに来てくれたり、1年生が学芸会のお客さんで来てくれたりして、子どももすごく楽しんで行っている。保育園もよい、幼稚園を選んだ方がよい子どももいると思う。

委員：保育園の入園者数が増えているのはなぜか。先程からいろいろな話を聞くなかで、その子によって合うところがあるのだろうと思う。差が開いているのは、どういうところに原因があるのだろうか。

仕事柄、親御さんの話を聞く。幼児教育無償化になり、3歳児未満も、保育所に入れるために仕事を探している人がいるという肌感覚。一度入ると無償化は続くし、友達もいるので、そういった感覚で通っている人もいると聞く。すこし、本来の目的とずれているのではと思う。子どもにとってどういった施設がふさわしいか、その中にも、親の都合がいくらか入ってくる。実際に親が身に付けられない養育の力は、そこに所属する人数が多ければなかなか対応しにくい。保育園も、ハード面がついていかなければ、一つの部屋に大人数で過ごしている園もある。市として行政としてフォローしていったほしい。

インクルーシブの視点が大切だと思っている。外国籍、障害の有無等の手厚さを考えた時、本当に適正な人数配置を考えていかなければいけないと思う。

委員：今保育園を利用している。里子でやってきた子で、急遽保育園を探して、空いている保育園に入れた。保育園でお世話になっているが、幼稚園に上がることも考えた。今は休園していて子どもがいない。小学校にあがると同級生が4人になってしまうので、今は大人数で考えた。大きいところでたくさんの友達に紛れて関わられるよう保育園でずっとお世話になった。保育園に行くと、「元気で過ごしています。」といわれる。あまり詳しく話をすることができない。先生に聞けばいいけど。大きいところと小さいところのそれぞれの良さがあると思う。

委員：幼稚園の人数が減っているというところの原因が何だろうというところを考えるとなんなんだろうと思う。保育園のことしかわからないが、保育園に携わりだして15年。その当時は、保育園から、約半分は幼稚園に行っていた。ここ7～8年でほとんど幼稚園に行かなくなった。幼稚園に行かれる方は毎年1人から2人。幼稚園に行く理由を聞くと、小学校の友達がいるから安心という答えが多い。生活のスタイルがあると思う。今幼稚園は保育園に行くことが出来ない家庭の受け皿になってしまっているのでは。そうであればさみしいなと思うが。

幼稚園にどういう魅力があって通っているのか、そういう分析はしたことがあるのだろうか。

事務局：保育料の無償化は大きな要因では。各家庭の就労が進んでいったことが、保育園

を選ぶ要因だという感覚は受けている。

委員：私が辞める 7 年前は、少子化が進む小さな波だった。今は大波になっている。幼稚園の先生の話の聞くと、それぞれの園の先生が、デメリットをメリットに変えて保育をしておられると思う。働くお母さんが増えてきた、核家族化が進んできた。家庭の教育を大切にしたいと保育をしてきたが、そのあたりも難しくなっている。この大きな波をなんとかしたいなと思っている。

委員：大人数なのだが、保育園は一人一人を大切にすることは大事にしている。保護者支援も、どこの園も大事にしている。多いからじっくりできていないということではないことをわかっていただきたい。時には一人一人に様子を伝えたり ICT を利用してつながったりしている。そのあたりはご承知いただきたい。

続きの資料説明：事務局

委員：稲倉幼稚園が令和 3 年度からいなかった。入園希望者があれば再度動くのか。

事務局：今までも相談はあった。ただ、1 名で幼稚園に通わせるのはどうかといったところで保護者に尋ねている。現在幼稚園を希望する家庭は県主、大江幼稚園に通っている。最終的に稲倉幼稚園への就園を希望をされなかったからということ。

委員：次の年になれば希望者が 2 人になるとか、アナウンスがあれば稲倉を選ぶのでは。

事務局：保護者判断になるので。

委員：人口減少比を考えると、幼稚園を選ぶ人の割合自体は少なくならないのかなと感じた。

（４）保護者アンケートについて

説明：事務局

保護者のニーズを図るもの。

委員：このアンケートによって、市は何を知りたいのか。

事務局：幼稚園保育園のニーズ、保護者の考える適正人数、保護者が施設を選ぶ際の基準、幼稚園が統廃合した際、幼稚園を選ぶ方がどれくらいいるのかというところを見取りたいと考えている。

委員：適正な人数が何人かなど、そんなことは保護者には分からないと思う。幼稚園と保育園のどこが違うのか分かる人もいないのでは。統廃合したら間違いなく山間部は無くなってくる。保護者が送迎しないといけなくなる。保育園に行く資格がない子は幼稚園を選ぶしかない。

最後の方に書いてある、こども園をとという選択肢がある。なぜ保育園に行かないのか、幼稚園に行かないのか、なぜ幼稚園なのかというところを聞いたらどうか。そうすれば幼稚園の必要性が出てくると思う。

ならば公立のこども園をつくるとか、公立ではたくさんつくれないから私立の保育園に力を貸してくれないかという方法もある。

幼稚園と保育園の違いを分かって行っている保護者はあまりいないと思う。幼稚園に行っている人はなぜ幼稚園を選んでいるのか、を尋ねることがいるのでは。

費用をかけるなら、もう少し充実した内容にしたら。めあてがわかるようなアンケートを。

おおざっぱすぎるのでは。市の方で送迎をしてほしいとか、そういうニーズも出てくるかも。もう少し細かく聞いたほうがいいのか。

事務局：そういった意見を多くいただきたい。

（５）その他

委員：2019 年の 7 月に就学前教育検討委員会に参加した。その時、幼稚園の統廃合につい

て、次のように展望が書かれている。「幼稚園の統廃合は、子どもたちの健やかな成長を念頭に置きながら検討していく必要がある。本市の小学校区ごとの幼稚園の設置は、近隣に誇れる教育環境であることから、統廃合については慎重に考えるべきである。今後は、幼稚園における小規模の特性を生かした教育内容の充実をさらに進め、教育水準の維持・向上に努めていくことが求められる。しかし、出生時の減少や人口の減少により、現在の就学前教育施設を現状維持していくことが難しくなることも予想されている。地域や保護者の意見を十分踏まえた上で必要に応じて検討されたい。また、幼保一体化施設については、子供が教育・保育を一緒に受けることができる施設であり、保護者や子どもの教育・保育の選択肢の幅を広げる施設の一つである。地域や保護者のニーズを的確に把握することや、就学前幼児の推移数、施設の状況等を十分に考慮し、研究していくことが望まれる。」

今から 5 年前に出ている。この 5 年間で研究がなされたうえで、今回の検討委員会があると思う。市の事情、保護者の事情がこの 5 年間で大きく変わってきていると思う。でも、子どもを中心に置いた検討がなされることを願っている。

委員長：私も把握できていなかったので、勉強しておきたいと思う。他にないようでしたら事務局にお返しします。

6 そ の 他

第 2 回検討会議の案内について

7 閉 会

あいさつ（副委員長）

みなさまお疲れさまでした。難しい問題に忌憚のない意見をいただきました。

先日高砂市の教育委員会に視察に行った。そこで、教育長が、「教育とは子どもの今、未来を幸せにする営みです。」と言われました。子供の今、未来を幸せにするための審議会になればと思います。本日はありがとうございました。